

- 211.それはかれらに相応しいものでもなく、またかれらには（そんな）能力もない。
- 212.かれらは、啓示を聞くことから遠ざけられている。
- 213.それでアッラーと一緒に、外のどんな神にも祈ってはならない。さもないとあなたも懲罰される者の仲間となろう。
- 214.あなたの近親者に警告しなさい。
- 215.またあなたに従って信仰する者には、（愛の）翼を優しく下げてやりなさい。
- 216.かれらがあなたに従わないなら、「あなたがたが行うことは、わたしに関わりはありません。」と言ってやるがいい。
- 217.偉力ならびなく慈悲深き御方に（後は）御任せしなさい。
- 218.あなたが（礼拝に）立つのを見ておられる方に、
- 219.またサジダする者たちの間での、あなたの諸動作を（も見ておられる方に）。
- 220.本当にかれは全聴にして全知であられる。
- 221.われは、悪魔たちが誰の上を下るのかあなたがたに告げようか。
- 222.かれらは、凡ての嘘付きの徒の上を下る。
- 223.（悪魔の話に）耳を選ず（者）の多くは嘘付きの徒である。
- 224.また詩人たちのことだが、（悪魔に）唆かされた者たち（だけ）が、かれらに従う。
- 225.あなたは、かれらが凡ての谷間をさ迷い歩くのを見なかったのか。
- 226.またかれらは、自分の行いもしないことを口にするではないか。
- 227.信仰して善行に動しむ者、またアッラーを多く唱念し、迫害された後には自らを守る者は別である。不義を行った者たちは、どんな変り方で、移り変っていくかを、やがて知ることになろう。

SURA 27.蟻章 [アン・ナムル]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.ター・スィーン。これはクルアーンの印（凡ての事物を）明瞭にする啓典の印であり、
- 2.導き、信者への吉報である。
- 3.かれらは礼拝の務めを守り、定め喜捨をなし、堅く来世を信じる者である。
- 4.われは来世を信じない者には、自分の行いを（一見）立派に見えるようにした。それで、かれらは(舷?)惑されさ迷う。
- 5.これらは悪い懲罰が科せられる者で、来世においては、かれらこそ最大の失敗者であろう。

- 6.本当にあなたは、英明にして全知な御方の御許からクルアーンを授かっている。
- 7.ムーサーが、その家族に向かって言った時を思い起せ。「本当にわたしは、遙かに一点の火を認めた。わたしは、そこからあなたがたに火についての消息を（宙？）すであらう。または火把を持ち帰り、それであなたがたは、暖められるかもしれない。」
- 8.かれがそこに来ると、声があった。「火の中にいる者、そしてその廻りの者に祝福あれ。万有の主、アッラーに讃えあれ。」
- 9.ムーサーよ、本当にわれこそは、偉力ならびなく英明なアッラーであるぞ。
- 10.さあ、あなたの杖を投げなさい」。ところがかれは、それが蛇のように動くのを見ると、逃げだし、後ろも見なかった。（その時、声があつていった。）「ムーサーよ、あなたは恐れてはならない。本当に使徒たる者は、われの前で恐れてはならない。
- 11.悪を行った者は別だがそれでも、その後、悪の代りに善を行う者は（恐れることはない）。本当にわれは寛容にして慈悲深き者である。
- 12.またあなたの手をふとこころに入れなさい。支障もないのに、出すと白くなろう。（これらは）フィルアウンとその民に示す、9つの印の1部である。本当にかれらは、主の掟に背く民である。」
- 13.わが明瞭な印が目に見えてかれらの許に来た時、「これは明らかに魔術である。」とかれらは言った。
- 14.かれらは心の中ではそれを認めながら、不義と高慢さからこれを否認した。それでこれら悪を行う者の最後がどうであったかを見るがいい。
- 15.本当にわれは、ダーウッドとスライマーンに知識を授けた。両人は言った。「信心深い数多いしもべの中から、わたしたちを選ばれた方、アッラーを讃えます。」
- 16.スライマーンはダーウッドの後を継ぎ言った。「人びとよ、わたしたちは鳥の言葉を教えられ、また凡てのものを授けられた。これは明らかに（アッラーの）恩恵である。」
- 17.スライマーンの命令でかれの軍勢が集められたが、かれらはジンと人間と鳥からなり、（きちんと）部隊に編成された。
- 18.やがて蟻の谷に来た時、一匹の蟻が言った。「蟻たちよ、自分の住・かに入れ。スライマーンとその軍勢が、それと知らずにあなたがたを踏・躪らないよう。」
- 19.そこでかれ（スライマーン）は、その言葉の可笑しさに顔を綻ばせ、（祈って）言った。「主よ、わたしと両親に与えられたあなたの恩恵に感謝し、あなたの御喜びに与かる善行に励むよわたしを励まし、またあなたの慈悲で、わたしを正しいしもべの中に入れて下さい。」
- 20.またかれは鳥たちを検閲して、言った。「どうしたのですか。ヤツガシラ鳥がいないではないですか。あれも欠席組の中だったのですか。」

- 21.「わたしは厳しい刑で、必ずあれを処罰し、あるいは殺すでしょう。明瞭な理由をわたしに持って来ない限りは。」
- 22.だが、長く待つまでもなく、それは（罷り出て）言った。「わたしは、あなたの御気付きにならない事を知りました。わたしは確実な情報を、サバアから持って来ました。
- 23.わたしは或る婦人が、人びとを治めているのを発見しました。かの女には凡てのものが授けられ、また素晴らしい王座がごぞいます。
- 24.わたしはかの女とその民が、アッラーを差し置いて太陽を拝んでいるのを見届けました。そして悪魔が、かれらに自分たちの行いを立派だと思込ませ、正道からかれらを閉め出しているのです、正しく導かれておりません。
- 25.そこでかれらは、天と地の隠されたことを現わされる、アッラーを拝していません。あなたがたの隠すことも現わすことも知っておられる方を（拝していません）。
- 26.アッラー、かれの外に神はありません。かれは壮麗な玉座の主であられます。」〔サジダ〕
- 27.（スライマーン）は言った。「わたしはあなたが、真実を語ったのか、または嘘付きの徒なのか、直ぐ分るであろう。
- 28.あなたはわたしのこの手紙を持って行って、それをかれらに落としなさい。それから退いて、かれらが何と返事するかを見るがいい。」
- 29.かの女（王）は言った。「長老たちよ、本当に尊い手紙がわたしに届けられました。
- 30.本当にそれはスライマーンから、慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において（(西?)されたもの）。
- 31.それはこう言っている。わたしに対しあなたがたは高慢であってはなりません。（真の教えに）服従してわたしのもとに来なさい。」
- 32.かの女は言った。「長老たちよ、この事に就いてわたしに意見を聞かせて下さい。あなたがたが証言するまでは、わたしは事を決定しないでいよう。」
- 33.かれらは言った。「わたしたちは力量もあり、烈々たる武勇も授けています。だが大命はあなたさまの手にあります。どう御命令なさるかよく御考え下さい。」
- 34.かの女は言った。「本当に帝王たちが町に入る時は、それを荒廃させ、またその住民の最も身分の高い者を最も卑しくします。かれらはこのように行うのが、常です。
- 35.それでわたしは、かれらに贈物を届けましょう。そして使節がどんな（返事を）持ち帰るか見ましょう。」
- 36.（使節が）スライマーンを訪れると、かれは言った。「あなたがたは、わたしの富を増やそうとしますか。だがアッラーがわたしに与えたものは、あなたがたが贈るものよりも優っています。いや、あなたがたは、自分の贈物で（勝手に）喜んでいるだけです。

- 37.かれらの許に帰れ、わたしは必ずかれらが立ち向かえない軍勢でもって臨・、かれらの面目を失わせ身分の卑しい者にしてそこから追い出すでしょう。」
- 38.（スライマーンは自分の民に）言った。「長老たちよ。あなたがたの中、かれらが服従してわたしの許に来る前に、かの女の王座をわたしに持って来ることが出来るのは誰ですか。」
- 39.するとジンの大物が言った。「わたしはそれを、あなたが席から御立ちになる前に、持って参りましょう。本当にわたしは、それに就いては能力があり信頼出来る者です。」
- 40.啓典の知識をもつ者は言った。「わたしは一つの瞬きの間に、あなたにそれを持って参りましょう。」（スライマーンは）それがかれの前に置かれたのを見て、言った。「これはわたしの主の御恵・。わたしが感謝するか、または恩知らずかを試・られるためです。本当に感謝する者は、自分のために感謝するも同然。誰が恩知らずであってもわたしの主は、満ち足られる方崇高な方です。」
- 41.スライマーンは、「かの女の王座の装いを変えなさい。かの女が導かれているのか、導かれていないのかを試して見よう。」と言った。
- 42.そこでかの女が到着すると「あなたの王座は、このようであったのか。」と尋ねた。かの女は言った。「それらしゅうございます。」さてかれは（考えた）。「わたしたちは、かの女より以前に知識を与えられ（アッラーに）服従、帰依しています。」
- 43.だがかの女がアッラー以外に拝していたものが、かの女を行き詰らせました。本当にかの女は、不信心な民の一人でした。」
- 44.（それから）かの女は、宮殿に入るよう告げられた。だがそれを見た時、池だと思い、（裾を上げて）かの女は両脚を現わした。スライマーンは言った。「本当にこれはガラス張りの宮殿です。」かの女は、「主よ、本当にわたしは自ら不義を犯しました。（今）わたしは、スライマーンと共に万有の主の服従、帰依いたします。」と言った。
- 45.われは先に、サムードの民にその兄弟のサーリフを遣わした。（かれは）「アッラーに仕えなさい。」（と申し渡した）。ところが見るがいい。かれらは2派に分れて争った。
- 46.かれは言った。「わたしの人びとよ、あなたがたは、何故善い事を差し置いて悪事に急ぐのですか。何故あなたがたは、アッラーの御赦しを請わないのですか。必ず御恵・にあずかるのに。」
- 47.かれらは言った。「わたしたちがあなたと、あなたの仲間の者に就いて鳥占いすると凶と出ました。」（かれは答えて）言った。「あなたがたの凶兆は、アッラーの御許にあります。いや、あなたがたこそは（アッラーによって）試・られている民です。」
- 48.この町には9人の一団がいた。かれらは地上に害悪を流し改心しなかった。

- 49.かれらは言った。「かれ（サーリフ）とその家族を夜襲するように、アッラーにかけて誓いあおう。その後かれの保護者に告げましょう。『わたしたちは、かれの家族の殺害を目撃していません。本当であり嘘ではありません。』」
- 50.かれらは策謀して企んだが、われも策を巡した。だがかれらは（それに）気付かない。
- 51.だから見るがいい。かれらの策謀の最後がどんなものであったかを。本当にわれは、かれらとその民を一斉に滅ぼしてしまった。
- 52.かくてこれこそ、不義を行ったために廃墟と化したかれらの住居跡である。本当にこの中に知識ある民への一つの印がある。
- 53.そしてわれは、信仰して主を畏れる者たちを救った。
- 54.（われはまた）ルート（を遣わした）、かれがその民にこう言った時を思い起しなさい。「あなたがたは（不義だと）認めていながら、破廉恥な行為をするのですか。
- 55.あなたがたは、情欲をもって女たちを差し置いて男のもとに行くのですか。いや、あなたがたは、本当に無知の民です。」
- 56.だがかれらの民は、（真面目に）答えず、「この町からルートの家族を追い出しなさい。かれらは本当に純潔振る人びとです。」と言うだけであった。
- 57.だがわれは、かれ（ルート）の妻を除いてかれとかれの一家を救い、かの女を後に残すことにした。
- 58.そしてわれはかれらの上に、（石の）雨をどつと降らせた。この雨は警告された者にとり災いであった。
- 59.言ってやるがいい。「アッラーに讃えあれ。かれが選ばれるしもべたちの上に平安あれ。アッラーが好ましいか、またはかれらが（かれに）配する神々か。
- 60.誰が、天と地を創造したのか。また誰があなたがたのために、天から雨を降らせるのか。それでわれは、美しい果樹園をおい茂らせる。そこの樹木を成長させることは、あなたがたには出来ない。アッラーと共に（それが出来る外の）神があろうか。いや、かれらは（正しい道から）外れた民である。
- 61.誰が、大地を不動の地となし、そこに川を蝕け、そこに山々を置いて安定させ、2つの海の間隔に隔壁を蝕けたのか。アッラーと共に（それが出来る外の）神があろうか。いや、かれらの多くは知らないのである。
- 62.苦難のさいに祈る時、誰がそれに答えて災難を除き、あなたがたを地上の後継者とするのか。アッラーと共に（それが出来る外の）神があろうか。だがあなたがたは、少しも留意することがない。

- 63.陸と海の情黒の中で、あなたがたを導くのは誰か、また慈悲の前兆の吉報として、風を送るのは誰か。アッラーと共に（それが出来る外の）神があろうか。アッラーはかれらが（主に）配して崇めているもの（偶像）の上にと高くおられる。
- 64.創造をなし、それからそれを繰り返す、天と地からあなたがたを扶養するのは誰か。アッラーと共に（それが出来る外の）神があろうか。言ってやるがいい。「あなたがたが真実を語っているというのなら、その証拠を出しなさい。」
- 65.言ってやるがいい。「幽玄界を知るものは、天地の間でアッラーの外にはないのである。」またかれらは、何時甦らされるか感知出来ない。
- 66.いや、かれらの知識は来世に及ばない。いや、それに疑いを抱いている。いや、それに就いてかれらは盲目である。
- 67.不信心の者は言う。「わたしたちやわたしたち祖先が、泥になってしまってから、本当に甦らされるのであろうか。」
- 68.わたしたちもわたしたちの祖先も、以前、このことを約束された。だが本当にこれは、昔の人の物語に過ぎない。」
- 69.言ってやるがいい。「地上を旅して、これら罪深い者の最後がどうであったかを見届けよ。」
- 70.あなたは、かれらに就いて悲嘆しなくてもよい。またかれらの策謀に心を痛めなくてもよい。
- 71.かれらは言うのである。「あなたがたが真実を言うのなら、この（威嚇の）約束（が来るの）は何時ですか。」
- 72.言ってやるがいい。「あなたがたの急いでいることの幾つかは、あなたがたに迫っているかも知れない。」
- 73.本当にあなたの主は、人間に対し恩恵を施す御方である。だが、かれらの多くは感謝もしていない。
- 74.本当にあなたの主は、かれらが胸に隠すことも現わすことも知っておられる。
- 75.天と地の隠されたことは、等しく明瞭に書冊の中に（記されて）ある。
- 76.本当にこのクルアーンは、イスラエルの子孫に、かれらが議論している最も大きな問題について語るものである。
- 77.本当にそれは、信仰する者たちに対する導きであり慈悲である。
- 78.本当にあなたの主は、御自分の叡智をもってかれらの間を裁定されるであろう。かれは、偉力ならびなく全知であられる。

- 79.そこであなたは（凡て）アッラーに御任せなさい。本当にあなたは、明白な真理の（道の）上にいるのである。
- 80.本当にあなたは、死者に聞かせることは出来ない。また聞えぬ者に呼び掛けても聞かせることは出来ない。（ことに）かれらが背を向けて引き取る時は。
- 81.またあなたは見えない者を、迷いから導くことは出来ない。あなたはただ、わが印を信じる者たちに聞かせられるだけである。そうすればかれらは服従、帰依するであろう。
- 82.かれらに対し御言葉が実現される時、われは大地から一獣を現わし、人間たちがわが印を信じなかったことを告げさせよう。
- 83.その日われは、それぞれの民族から、わが印を虚偽であるとした一群を集め、隊列に並べよう。
- 84.（審判の席）まで、かれらが来た時仰せられよう。「あなたがたは、（自分の）知識では、わが印を理解出来なかったのに、それらを嘘であるとして信じなかったではないか。（そうでなかったら）あなたがたは一体何をしていたのか。」
- 85.そして御言葉が、かれらに対し下されると、その自ら行った悪行のためにかれらは（一言も）言えないであろう。
- 86.かれらは気が付かないのか。われはかれらの憩いのために夜を蝕け、またものが見えるように昼を定めたではないか。本当にこの中には、信じる人びとへの印がある。
- 87.ラッパの吹かれる日（をかれらに警告しなさい）。アッラーが御好・の者の外は、天にあり地にある凡てのものは恐れ戦き、皆身を低くしてかれ（の御前）に罷り出よう。
- 88.あなたは山々を見て堅固であると思うだろう。だがそれは雲が散るように通り過ぎていくのである。それは凡てのものを、完成なされるアッラーの御業である。本当にかれはあなたがたの行うことを熟知なされる。
- 89.善事を携えて来る者には、それよりも善いものを与えられ、その日、恐れから安全になろう。
- 90.悪事を携えて来る者は、顔から先に火獄に投げ込まれよう。さてもあなたがたは自分の行ったこと以外のことで、報われようか。（そんなことはない。）
- 91.わたしは、聖域となされたこの町（マッカ）の主にだけ仕えなさいと命じられた。凡ての有はかれに属する。わたしは、服従、帰依する者の一人であるよう命じられ、
- 92.またクルアーンを誦するよう（命じられた）。それで導きを受ける者は、自分自身のために導かれるのである。そして迷う者には、「わたしは警告者の1人に過ぎない」と言ってやるがいい。
- 93.また言ってやるがいい。「アッラーを讃えよ。かれは間もなく数々の印を示される。そしてあなたがたも、それを知ることになろう。主はあなたがたの行うことを、疎かになされない。」